

「病院通いも体力がいる・・・」



黒田 朔

今までは「元気印」を看板に歩いてきた私だが、最近、病院通いが牧師現役時代の集会予定のように私のカレンダーを埋めるようになっている。

血液検査の結果のガンマーカーの上昇原因を確かめるために、CT スキャンと MRI 検査、その途中で、腎臓が弱っていることが分かり、この手当のために病院行きが増

えるだろう。

以前、105才でなくなったクリスチャンドクター日野原重明先生が「高齢者の健康とは病気の無いことではなく、自分の弱さに気づきながら、自分で人生を楽しむことです。最近の進んだ機械で色々調べるとどこかに悪いところ、弱っているところが見つかりますよ。長い人生を生きて来たのだから。」と話しておられたことを思い出す。

さて、明日は阪南病院で MRI 検査、4月には超音波内視鏡検査、加えて、白内障手術に腎臓の手当て、わが身のことながら、病院通いも体力が必要。元気でなければできそうにない。

それにつけても、聖書の約束は有り難い。

元気を出して、明日、阪南病院へ行って来よう。

「あなたがたのうちだれが、心配したからといって、少しでも自分のいのちを延ばすことができるでしょうか。・・・まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。ですから、明日のことまで心配しなくてよいのです。明日のことは明日が心配します。苦勞はその日その日に十分あります。」マタイ 6:27,33,34